
編集後記

春らんまんの4月となりましたが皆様にはお元気でご活躍のことと存じます。お手許に日本透析医会雑誌16巻1号をお届けします。

本号では、特集として昨年11月に開催された Consensus Conference “透析液の清浄度基準”の内容を各講師の先生方に論文としてまとめていただきました。透析医療の進歩とともに清浄度基準が非常に問題になっているとき、これは必読の内容かと思えます。

一方、地震などの災害が最近各地で頻発しております。有珠山や三宅島の噴火、鳥取西部地震、愛知県の水害に続き、広島県や静岡県地震と、広範囲な災害発生になっております。災害時には透析医療においても被害を受けるのですから、医会は勿論、支部単位、各施設単位でこれに対する対策を立てるべきでしょう。そのために今号でも関連する論文を掲載しました。

また、感染に対する対策も重要ですが、今回は広島県で作成された詳細な広島のC型肝炎感染の調査報告ができておりますので、転載させていただきました。これも得難い報告書と思えます。

臨床面では acetate-free biofiltration や在宅血液透析など、臨床上問題となっているテーマを取り上げました。

毎年実施している透析医療費の実態報告も取り上げました。今号ではその前半を掲載しましたが、これにより、昨年実施された診療報酬の改訂がどのように影響を与えているかがよくわかります。また、これは来年行われる予定の診療報酬改訂に対しても関係してくるものであり、重要な報告です。次号にこれの後半を掲載する予定です。そのほか、診療報酬に関係の深い特定保険医療材料についての解説も取り上げました。

このように、本号も皆様にお役に立つ問題を取り上げて編集しました。それぞれ有益な内容かと思えますので、どうぞご熟読下さい。

皆様のご健闘を祈ります。

広報委員会委員長 飯田喜俊